

まる子三ヶ年計画

『ちびまる子ちゃん』が TV アニメとして放送されることが決まったのは 1989 年の秋であった。

アニメ会社とフジテレビとの契約で、それは三年弱放送される予定になっていた。もし視聴率が悪いようなら、三年より短期間で打ち切りということになったであろう。

当時、私の描いた『ちびまる子ちゃん』の原作数は五十話ぐらいであったため、毎週一本放送するとなると、原作は約一年で使い果たしてしまう計算になる。

関係者一同「・・・・・・・・一体この先はどうなってゆくんだろう」という不安を抱えながら TV アニメはスタートされた。しかし心配は御無用であった。

実は、「ちびまる子」のネタは、三年分ちゃんと計画を立てて表にしてあったのだ。

アニメの監督は芝山努さんという、大変に素晴らしい仕事をなさる方が手にかけて下さり、まる子はブラウン管の中で生き生きと動き回る命を授けていただいた。

そして私は季節に合わせて計画通りに台本を書き、TV ならではの試みもジャンジャン取り入れてみようと楽しんできた。

芝山監督もその意図を非常に理解して下さり、私がイメージしていた場面よりもさらに良い仕上がりになっていたりして、毎週毎週『ちびまる子ちゃん』の放送が楽しみで仕方なかった。

有難いことにまる子はたくさんの方々から応援を受け、TV 放送は景気よく続けられていった。

一時期、世間では「ちびまる子のネタがそろそろ切れるんじゃないか」などと騒ぎ出していたが、私の方の計画は着実に進んでおり全然大丈夫だったのだ。

このようにして楽しみだった「まる子」の TV アニメも、もうすぐ予定期間をめでたく満了し、三ヶ年計画が終わることになる。アニメ計画が終了した後は、私はまた漫画のまる子を描きながら、新しい計画をじっくり練ってゆこうと思っている。

何か物事にとりかかる時には、始まりから終わりまでの構成が、完全にでき

あがっていなくてはいけないなアと、私はこの"まる子三ヶ年計画"を実行し、つくづく感じた。

物を創るということは、創り手が全てわかっていなければならないのだ。全てが作者の掌の上でなくてはならない。それが粋というものであり、創り手がわかってない作品というものは野暮なのである。私はこの三年間で、そういうことの大切さが骨身にしみて理解できるようになった。

摘自さくらももこ，《さるのこしかけ》（集英社文庫，2002年），頁126-128。